

◆荒井類 選

《新型コロナウイルス感染症を詠んだ句》

新型コロナ少し離れて雪まつり 小平湖

小平湖（こひらうみ）は、この句を非常に早い時期に詠んでいる。（「鷗座」三月号の原稿締切は二月十日）。であるのに、その後の新型コロナウイルス感染症の広がり、それをめぐるドタバタまで予言しているがごときである。

改めて実際の推移を見てみよう。二月三日に豪華客船ダイヤモンド・プリンセス号（横浜港に寄港）の乗船者からコロナウイルスの陽性者が確認された。

「少し離れて」、北海道で初めて感染者が確認されたのは一月二十八日、中国の春節（旧正月）の三日後だった。感染者は二十一日に武漢市から来日し、北海道を訪れた四十代の中国人女性だった。（一月二十一日の時点でも、武漢から！の中国人観光客がフリーパスで日本へ入国できているのがわかる）。札幌では、二月四日（火）から二月十一日（火・祝）まで、「さっぽろ雪まつり2020」が行われた。

日本政府は、中国の最高指導者・習近平の国賓待遇での訪日招待を念頭に（したのだろう）、中国での感染症発生への報に接しても、中国人（観光客）の入国を全面的には禁止せず、ほんの一部の入国制限にとどめた。

そのせいであろう、北海道では新型コロナウイルス感染症が蔓延し、一時感染者数は全国最多となった。そして、北海道の鈴木直道知事は二月二十八日、法的根拠を持たない「緊急事態宣言」を発し、道民に三週間にわたる週末外出自粛を求めた。国の「非常事態宣言」に先駆けて出された「緊急事態宣言」については、その決断を英断として鈴木北海道知事を評価する声が多い。

《予言するが如き「怖い」句も滑稽俳句の一種》

（多くの方にとっては蛇足であっただろう）新型コロナ感染拡大の背景についてのレクチュアが長くなったが、そういう事態の進展を知って眺めると、掲句〈新型コロナ少し離れて雪まつり〉のすごさわかる。この十七音の中に、こ

れから起こるであろうすべてが暗示されている怖さ。この句はその後の展開を予言していたのではないか。

五月雨や大河を前に家二軒

与謝蕪村

昨今の豪雨災害を思うと、有名な蕪村の句の怖さがよくわかる。大河を前に家二軒——このなにげないひと言が、どれほど怖ろしいことか。

さすがは、正岡子規が「新聞日本」の文芸欄で、〈五月雨をあつめて早し最上川 芭蕉〉と比べて軍配を上げた（絶賛した）名句である。

また、高野ムツオによれば、〈蕪村は現在の大阪市都島区毛馬町生まれ、「馬堤は毛馬塘也、即余が故園也」と記した手紙も残っているから、蕪村は川のほとりで育ったといえる。雨や川へのこだわり、そうした出自があると推定するのは穿ち過ぎだろうか。この句は明瞭である。溢れんばかりの大河の威力と、そのすぐ側に呑み込まれまいと立つ、実に心細げな二軒の家の対比。〉とある。『鑑賞 季語の時空』角川書店）。

筆者はこういう「怖い」句も、広義の滑稽俳句に含めていいと思っている。（「笑いを伴わない滑稽も存在する」『ブリタニカ国際大百科事典』より）。ブラックユーモアの一種。

小平湖の掲句〈新型コロナ少し離れて雪まつり〉も、そういう怖さを秘めており、滑稽俳句の一句として遇したい。

ただし、末筆ながら、「令和二年七月豪雨」で亡くなられた方々に謹んで哀悼の誠を捧げたい。また、被災された方々には、心からのお見舞を申し上げる。

《この「恐怖感」の句は立派な滑稽句》

先の二つの句とはまた違った「怖い」俳句についてみてみよう。

髪洗ふ処刑のごとく首のべて

中村 紅絲こうし

髪の毛を洗っているときは、背後に何がしようが、誰が来しようが、見えないものである。気配を感じることもすら難しいと思う。だから、漠然とした不安、恐怖感がある。マリー・アントワネットがギロチン台に首をさし出したときの

ような恐怖も。

「かっちりとした定型で、比喻表現だけで〈処刑〉のイメージにずらす。この鮮やかさは見事です」とは、関悦史の言。「うまい句ですね、これは」と小澤實も称賛している。(角川「俳句」二〇二〇年八月号「特別座談会 発想の広げ方」小澤實・仲寒蟬・和田華凜・司会／関悦史、より)。

俳句の巧みさにも見るべきもののある掲句であるが、滑稽俳句としてもなかなかのものである。

(文中敬称略)